



『Analytical Sciences』誌の 現状と今後の課題

堀 田 弘 樹

Analytical Sciences 誌は今年、創刊から 41 年目を迎えました。九州大学の加地範匡編集委員長のもと、2 名の副編集委員長（埼玉大学の齋藤伸吾先生と筆者）、国内 32 名の編集委員の先生方と編集作業に取り組んでいます。海外編集委員（EAE）も 21 名を数え、日本分析化学会の英文誌（International journal of The Japan Society for Analytical Chemistry）として Springer Nature（SN）社から出版されています。

2024 年は総投稿数が 701 報に達し、2023 年の 599 報から大幅に増加しました。特に、国外からの投稿が増加しており、総説の投稿が約 30 報から約 60 報（特集号記事は除く）へと倍増しました。一方で、全体の掲載数は、2023 年が 225 報、2024 年が 235 報で微増に留まり、2024 年投稿分の採択率は 30% に満たず、2023 年投稿分から 10 % 以上低下しました（投稿と掲載には時間のずれがあるため、上述の掲載数÷投稿数ではありません）。したがって、投稿数の増加が必ずしも論文の質向上には直結していないことが大きな課題となっています。国外からは、インドや中東からの投稿が増えており、本誌の国際的な認知度が上がっているともいえますが、Transfer による投稿と思われるものも多く、副編集委員長によるリジェクトが前年より増加しています。このように、現状では投稿元がアジアに偏っているため、より広く欧米からも投稿されるようにすることが質向上に向けて重要であると考えます。海外の研究者に査読を断られるケースも多いので、EAE を中心に査読に加わってもらうことから地道に進めていくのがよいと感じています。

また、広報にも力を入れており、毎号の Hot Article 選出、Most Cited Paper の表彰などを継続しています。国内向けには、周知の通り、討論会、年会において紹介ブースを設置しており、今年度は SN 社からの支援もいただきました。投稿の際に本誌を多く引用していただくことも非常に重要です。

2024 年は Rapid Communication, Note, Advancements in Instrumentation の掲載数が 31 報と前年の 1.5 倍に増えました。多様な投稿種別が多くの投稿を引き出す要因の一つになっていると感じています。最近、政策も絡んで話題になっているオープンアクセス論文ですが、2024 年は約 30 報（Highlights 論文を除く）で、2023 年のおおむね 3 倍に増えています。SN 社と大学との転換契約も進んでいることから、今後もオープンアクセス論文の掲載数が増加していくものと推測されます。2024 年のインパクトファクターが 2.0 とやや上がったとの報告が SN 社よりありましたので、これまでの地道な活動の継続が向上につながったと考えています。

『Progress and Prospect in Analytical Science and Technology』をテーマとする 40 周年記念特集を昨年企画し、国内研究者の皆様からご投稿頂きました。この企画の論文は、2025 年 5 号または 8 号（Volume 41, Issue 5, 8）に掲載しますので、どうぞご期待ください。今後とも会員の皆様からのご支援を賜れますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

〔Hotta Hiroki, 神戸大学大学院海事科学研究科,

「Analytical Sciences」副編集委員長〕